

相談を大切に

若築建設株式会社
ダイハツ陸橋撤去作業所

● 内海

祐希



土木に関わりだしてまだ浅い私ですが、現場での経験と摸索中のワークライフバランスについてご紹介させて頂きたいと思います。

神戸市で生まれ育ち、休日の度に家族で近畿中四国各地にて釣りや海遊びをしたり、家では絵や工作をしたりするのが大好きな子供でした。父親が建築工房を営んでいたので、幼いころから作業着を着た人たちが身近な存在でした。とはいっても、小学生の頃はそういう仕事への憧れは特にありませんでした。中学生になり進路を決める際、なんとなく見学に行つた高専のオープンスクールでの都市システム工学科の展示で、汽水でタコと淡水魚を共存させた水槽の展示や人が渡れるブロック積みのアーチ橋を見て、中学校の授業にはない実践的な学びに興味を持ちました。そこから、ものづくりの中でも今まで父親の仕事を見てきた建築とは違う土木という分野があることを知りました。土木のスケールや自然と向き合うという面で、自分が小さいころから好きだった海を始めとした自然やものづくりと将来のイメージが繋がったような気がしました。私が行くべき所はここだと思い進学を決めました。

高専に入つてからは、自由な校風や毎週の実験や実技、海外の学生との交流を、じっくり五年間行い、マイペースな私に合つた生活が送れたように思います。就職先の参考とするため四年生でインターンシップ先を検討するうちに、これまた初めて海

洋土木という分野があることを知りました。海の横で働けたら気持ちいいだろうなと思い、若築建設でのインターンシップを希望しました。インターンシップを受け入れてくださったのは南国の岸壁築造の現場でした。夏の暑さはなかなかものでしたが、潮風は気持ちよく、女性社員（高専卒・当時二年目）の方が、会社や業界の良い所ばかりじゃなく大変だったこと等も包み隠さず話してくださったことで、自分が働くビジョンが見え入職を決めました。

技術者になつていく

若築建設には女性技術者は何名かいらっしゃいましたが、配属された大阪支店では女性技術者は私が初めてでした。入社後すぐの半年間は支店の内勤に配属となり、海の現場で働くと楽しみにしていた私は現場に出ていく同期を羨ましく思いました。その後、一年目の秋いよいよ現場へ配属頂けることになりました。初めての現場は高速道路工事。現場の立ち上げから一つの函渠の完成までを担当させてもらいました。初現場、女性でもスムーズに進めてみせるという意気込みは即打ちのめされました。緊張もあり簡単な測量でも間違いだらけ、施工の流れが分かっておらず、工程を半日一日……と遅らせてしまう、丁張杭が上手く打てない。思い描いた技術者にはなれませんでした。体力面で遅れる分、早く準備が出来るよう、作業単位レベルの工程表を作成してとにかく聞く、色々な意味で職人さんの仕事を見る意識を持つ、何より一



初配属現場にて

一緒に働く人に相談・助けを求めることが必要だと思いました。そんな沢山の挫折と学びを得た一つ目の現場から幾つかの現場を経験させて頂き、現在の陸橋撤去工事に配属されました。計画の期間が長く、先手の準備が肝となる実践の場となりました。それまでの各現場の経験を活かして、常にコミュニケーションを大切にしながら、予定管理や協議先に何を提示すべきか、何を準備するべきかを考え進めました。

ワークライフバランス

私生活では昨年の初めに結婚をしました。夫は高専の同級生で同じく作業着を着て働く仕事をしています。



陸橋一括撤去状況

ありがたいことに子供を授かり、この冬に出産予定です。妊娠が分かったのは今後の現場のメインイベントである国道夜間通行止を目前としたときでした。そのXマークのために一年半前から各所と調整を行い、現場を進めていました。妊娠発覚は驚きと大きな喜びと不安が混ざった感覚でした。気付いたのがごく初期だったので、職場への報告はそのXマークが終わり落ち着いてから行うことになりました。(夜間作業は職員の役割分担を決め、重い資材を運ぶことのない安全なポジションにつきました。)当日は大きなトラブルもなく無事に橋の撤去が完了しました。妊娠初期の内は何かあった際に調整をお願いする可能性のある所長等一部の方に報告することにしましたが、男性職場であり、

まだ四年目の若手でこれからどんどん現場を経験して頑張れと言つていただいていたのに、どう思われてしまうかと不安でした。しかし、報告の反応は温かく、ためらう必要はありませんでした。思えば入社以降、上司の方々は長く仕

事を続けていきたいという私の思いを尊重し、対話の慎重性の求められる難しい中、一緒に考えてくださっていました。報告以降は現場にも最後まで就かせて頂き、検診や体調にも配慮頂いて、つわりやマイナートラブルはありつつもとても過ごしやすかったです。また、一年目に不満で仕方なかつた内勤業務の経験も、復職後に自分が携われる業務の幅を広げて頂いたのだと感じ、改めて優しいお気遣いに気付きました。

若築建設では産休育休を経た女性技術職員はまだまだ多くあります。しかし、少ないからこそ経験者に直球で相談出来たりません。先輩女性社員もほぼ同時期に妊娠されていましたと知り、相談したり、妊娠中でも自分に合った仕事の両立を摸索することが出来ました。私自身これから育児と仕事の両立を摸索していくことになりますが、妊娠中に頂いた温かいお言葉や、体調に合わせた働き方をさせて頂けたことは大きな安心感になつており、今後も仕事と同じく家族や職場に相談することがなにより大事だと考えています。仕事に復帰した際には女性も男性も相互に働きやすい職場、学生さんがワークライフバランスで入職をためらわずに済むような業界になるよう、この経験も活かしたいと思います。

内海さんからのバトンをしっかりと受け取りました。次号では、3次元設計の時代になりつつある今、私の業務内容の変化を中心にお話できたらと思います。ようしくお願ひします。

若鈴コンサルタンツ株式会社
計画事業部

川口香代子

